

◎層は淡黄色をしており、1 cm～3 cm大の角ばったレキを含む1 mほどの厚さの凝灰岩層です。

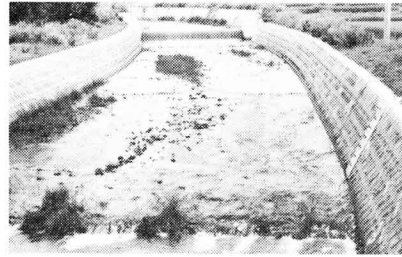
これらの地層はまだ十分に固結していません。新第三紀の中新世の末になって、海底時代に別れをつけ陸化しましたが、伏拝から塩沢にかけては、鮮新世に入って低地として湖底となって残り、周辺から土砂が運ばれていました。その当時に湖底につもった土砂がこのがけに見られる地層です。

2、川原のようすと流水のはたらき

(1) 調べる場所

油井川の学橋

(2) 土手又は橋の上から、水の流れの様子や中州のでき方などのおおよそをスケッチする。(橋の上では車の通行に注意する。)



① 中州は川の流れのどのような所にできているだろうか。

② 小石や砂などがつもって雑草などの生えている所は、川が曲がっている内側か、外側か。

(3) 川において流水のはたらきを調べる。

① ⑦付近で、中州近くとコンクリート土手近くとで、流れの速さがどのように違うか、20 mの長さを測り、木片などを流して流速を調べる。

② 中州から土手に向かって、川の深さ、川底の様子がどのように違うか、水中のぞき箱などを利用して観察する。

③ 板の上に、大きさの違う砂や小石をのせ、流水の中に沈めて流され方を観察する。

④ 川のところどころに、一段と高く川をせき止めている場所がみられるが、なぜこのようなものがつくられているのか考えよう。

